



水戸市民会館差し止め訴訟棄却 —水戸地裁を傍聴—

当初建設予算68億円が360億円超に！明らかな「地方財政法違反」を免罪する司法

6月15日(木)午前11時。裁判長から「水戸市民会館差し止め訴訟」判決の言い渡しがありました。水戸地裁3階301号法廷の廊下に並び、一般傍聴人として10時40分ごろ入廷しました。傍聴席64席は、NHKなどのマスコミも入り、ほぼ満席でした。

廣澤諭裁判長他2人の裁判官入廷直後、2分間の許可を得てNHKが廷内を撮影。その後、裁判長が「被告(市長)に裁量権の逸脱・乱用は認められない」と述べ、住民側の訴えを棄却。この間、わずか1分足らず。けんもほろろに、とはこんな時に使う言葉でしょう。税金を湯水のように使った事業に歯止めを掛けることが出来ない司法の無責任さと行政への追従ぶりに腹が立ちました。

東日本大震災で被災した旧水戸市民会館に代わり、移転・新設された市民会館の事業費をめぐる、事業費が過大だとして住民16人が提訴。新会館は、水戸芸術館に隣接し、水戸京成百貨店の真ん前にあります。

市街地の一等地に2,000人(旧会館は千人収容)もの巨大ホールをもちながら、駐車場は300台分しかないという杜撰さ。当初の建設予算は68億円でしたが、最終的には5倍以上の360億超に膨れ上がりました。

地方財政法(予算の執行)第4条「地方公共団体の経費は、その目的を達成するための必要且つ最小の限度をこえて、これを支出してはならない」に違反していることは明らかです。

「数は力」の立法、責任を取らない行政、行政の長の責任を問わない司法、と日本の三権分立は危険水域です。立憲主義の回復と「市民と野党の共闘」の再構築が切実です。



▲水戸市民会館HPより

寄稿

政府と一体化しつつある大メディアに注目しよう

全国一般労組茨城地本 特別執行委員 大曾根 紀雄

6月24日の昼休み、「ロシアはウクライナ侵略戦争をやめよ。大軍拡止めよ」の水戸駅頭宣伝行動に参加しましたが、市民の関心はもう一つと感じました。

岸田内閣の戦争準備のためとしか思えない43兆円大軍拡なのに、なぜ大きな関心と呼ばないのか。それにはマスコミ報道の変化—大軍拡の中身、問題点などをほとんど報道しない—が関わっているのではないのでしょうか。メディアの変化はどうして起こったか。NHK・OB皆川学氏「進歩と改革」原稿に依りながら考えてみましょう。

「2014年7月の集団的自衛権容認の閣議決定、翌15年9月の安保法制を巡り、反対世論が沸騰した。この批判の嵐に安倍首相が頭に来て11月、民放各局に対して『選挙報道は公平公正に』と文書を送りつけ圧力を加えた。翌15年には高市総務相が『電波停止もありうる』と答

弁し民放を威圧。この頃、安倍内閣は、毎週のようにメディアトップとの会食を開催し懐柔、安倍・菅政権はとりわけ『朝日とNHK』を目の敵にしてマスコミ対策を行った」と言います。

NHKに対しては、NHK経営委員に百田尚樹、長谷川三千子らを送り込み、政府の意に逆らわないNHK会長を選出させる。

これらが功を奏し、日本のメディアは政府批判をほとんどしなくなってしまった。今回の閣議決定にお墨付きを与えた『有識者会議』の中に、山口読売新聞社長、喜多日経新聞顧問と並んで、船橋元朝日新聞主筆も加わり、『南西諸島で基地の日米共同使用を促進すべきだ』と軍拡を煽る発言をしているという。かつてはリベラル派と目された人物が変節しています。」

メディアの一部が政権と一体化し始めているとの警鐘、私たちはどう対処すべきでしょうか。



再稼働、任せる？それとも県民が決める？

シール投票で来年の署名活動をアピール

6月18日(日)の午後、水戸駅南口デッキにおいて、いばらき原発県民投票の会が来年早々に始まる署名集めのアピール行動を行いました。

東海村の原発再稼働を「知事や県議会に任せる」か「県民投票で意思表示」するかを選んでもらう「シール投票キャラバン」を実施。17:69で、県民投票を選んだ人が4倍ほど多い結果でした。

メンバーの一人がウクレレで「県民投票のうた」を歌うなか、参加してくれた学生や子供連れのお母さんなどにパン

いばらき
県民投票の会



フレットを渡し、署名集めへの協力を訴えました。8月までに県内すべての市町村でこの活動を行う予定で、会のHPでは日程や画像がマッピングされていますので、ぜひご参加ください。(上のQRコードをチェック)(写真:会メンバー提供)

お知らせ

川又 俊水 (かわまた しゅんすい) <那珂平和の会・常任理事>さんより沖縄の基地問題を考える本の寄贈(以下の3冊)がありました。貸し出しますので、ぜひ、ご活用下さい!

お読みになりたい方は、電話もしくはFAXで申し込み下さい。 県委員会事務局 (☎・fax 029-251-2806) 担当・篠原事務局長



【沖縄戦 最後の証言】
《森住 卓》
新日本出版社
- 渾身のフォトドキュメント!
・おじい・おばあが米軍基地建設に抵抗する理由
・「戦わないために、今、闘っている」



【戦場が見える島 沖縄】
《嬉野 京子》
新日本出版社
・50年間の取材から
・なぜ「島ぐるみ」でたかうのか



【基地で平和はつくれる? つかれない?】
《石川文洋》
新日本出版社

・石川文洋の見た 辺野古
・再び加害者の島になってはいけない

新 会 員 紹 介

平和の会しもつま

平和を守る「大きなうねり」を起こしたい



赤塚 千夏 (あかつか ちなつ)

憲法と平和を守るために活動してきた父は私の誇り!

幼い頃から父が日立で艦砲射撃を受けた壮絶な体験を聞いて育ちました。戦後、憲法と平和を守るために活動してきた父は

私の誇りです。

昨年、ロシアによるウクライナ侵攻が始まり、父から聞いた戦争の話が昔話ではなく、今、実際に起きているという現実にショックを受けました。さらに半年前には父が亡くなり、これまで父が守ろうとしてきた平和を今度は私たち次の世代が守っていかなければならないとの思いを強くしました。

今、多くの国民の中にも大軍拡は仕方ないという風潮が広がっていますが、政権寄りの報道しかしないメディアの影響も大きいと感じています。そんなメディアに対抗するには、メディアが取り上げざるを得ない程の大きなうねりを起こして、私たちの運動を大きく広げていくしかないと思うのです。

私は、長年、子どもたちにピアノを教えてきました。その可愛い教え子たちに平和な世の中を渡せるよう精一杯がんばります。

学習会のお知らせ

「県立高校入試のあり方を展望する」

今春の県立高校の志願倍率も1倍を切りました。そろそろ県立高校の「入学者選抜試験」は終了し、別な方法を検討する時期に来ています。それが大人の責任です。学ぶとは、誰かと「競争」することではないですよね。ご一緒に考えませんか。

日 時 7月23日(日) 13:30~15:00

場 所 県立青少年会館

講 師 波岡知朗さん

(全日本教職員組合副委員長)

【主催】 民主教育をすすめる茨城県民会議

事務局から

4月からの新入会者「6名」です。

4月 男性1名(美和・緒川・御前山)

5月 男性3名(つくばみらい、土浦、下妻)
女性1名(下妻=赤塚さん)

6月 男性1名(土浦)

■身近な人に「平和委員会で一緒にしませんか?」と声を掛けてみましょう。案外にも「待っていました。よろしく願います」と言う事になりますよ。